Hajime Oniki
06/14/06

大阪学院大学経済学部・企業情報学部(平成１７年度後期)

情報経済論Ⅰ・情報経済論期末テスト問題

（注意、テスト形式のみ）

2006年2月1日
鬼木　甫

下記（Ａ）－（Ｄ）の４個の設問から**２問**（各５０点計１００点満点）あるいは**１問**（８５点満点）を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ（次ページ以下の「注意」Ⅲ.を参照)。選んだ設問について、設問中の単語をすべて含む「記述」（前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ形式の答案）を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を ◯ でかこむこと（ただし ◯ をつけるのは、「記述」中で各単語につき１カ所だけでよい)。

（Ａ）いろは、にほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ
（Ｂ）
（Ｃ）
（Ｄ）

加点票について：

これまで受け取った加点票（出席票各１％を含む）は、テスト答案の空白に添付すること。その際、添付には持参の「のり」あるいは「セロテープ」を使い、かつ加点パーセントの合計を「答案第１ページの左下部」に ◯ で囲んで書いておくこと（故意・過失による計算誤りは、マイナス加点とするので充分注意されたい）。また上記に反する添付は、受け取らないことがあるので注意されたい。

次ページ以下は、試験当日の**問題用紙には記載されていない**ので注意されたい（本注意の全部を試験当日に持参するとよい）。

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

注　意

I.　採点規準について：

１．採点は、「記述内容の正しさ、まとまり、豊富さ、深さ」によって行う。

２．自身で書き下したオリジナル文章の場合を高く評価する。

３．それぞれの単語を含む文章が前後関連なく並んでいる場合（下記の例(a)）は低く採点し、前後のつながりを明示している場合（下記の例(b)）は高く採点する。

例(a)（低採点）

哺乳類は学習によって生後に情報を取り込むことができる。コンピュータは、ハードウエアにソフトウエアを入れ込んで使用する。

例(b)（高採点）

哺乳類は学習によって生後に情報を取り込むことができる。同様にコンピュータは、ハードウエアにソフトウエアを入れ込んで使用する。つまり哺乳類の学習情報がコンピュータ・ソフトに対応している。

II.　持込・引用について：

１．持込無制限とする（コンピュータも可、下記 **IV.**を参照）。

２．答案中に自他の資料を引用する（書き写す、貼付ける）ことは差支えないが、１回の引用が１行分を超える際には、下記(a)(b)にしたがって引用元を明らかにすること。１行を超える無断引用があった場合、引用元の如何を問わず、答案無効となることがあるので注意すること。

(a)　ノート、教科書（テキスト）、教室配付資料、WWW入手・配付資料（本講義教材として指定の分）の場合、引用部分の前後に［　］（角カッコ）をつけて囲むだけでよい。

(b) 上記以外の資料からの引用の場合、引用部分をその前後に＜　＞（不等号カッコ）をつけて囲み、引用元（著者名、書物・雑誌等名、発行者、刊行年月日、引用ページ番号など）を明記すること。つまり、引用全体を
＜引用内容、（著者名、書物名等、・・・、引用ページ番号）＞の形にする。

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

III.　２問・１問選択の場合の採点法と解答用紙の形式について：

１．下記は、２問・１問選択の各場合の解答用紙の形式を示す。

(1)　２問選択の場合　　(100点満点)

２問選択：（A）と（C）

（A）・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・
・（答案エッセイ）・
・・・・・・。

（C）・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・
・（答案エッセイ）・
・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・。

（　　%）

(2)　１問選択の場合　　(85点満点)

１問選択：（A）

（A）・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・
・（答案エッセイ）・
・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・。

（　　%）

２．上記形式に反した答案の採点法

(a)　１問選択、２問選択を指定していない場合、実際の記述にしたがってそのいずれであるかを決める。

(b)　２問選択と指定したのに１問だけにしか答えていない場合、５０点満点で採点するので注意すること。

(c)　２問選択と指定したのに、あるいは指定なしで３問以上に答えている場合、第１番目と第２番目を100点満点で採点し、第３番目以降の答は無視する。

(d)　１問選択と指定して２問あるいはそれ以上に答えている場合、第１番目の答を８５点満点で採点し、第２番目とそれ以降の答は無視する。

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

IV. 磁気フロッピーによるテスト答案の提出について

試験場にコンピュータ（ノート・パソコンなど）を持ち込み、答案作成のために参照・使用することは差支えない。ただし、コンピュータを使う発信は禁止する。また、騒音の大きいものは避けること（騒音のため、座席の移動を命じることがある）。

答案（の一部）を、コンピュータで作成したフロッピーによって提出してもよいが、この場合は下記に留意すること。

1. 答案の全部をフロッピーで提出するときは、答案用紙上に１問・２問選択の指定と、指定した問題の記号（Ａ、Ｂなど）のみを書き、これに加えて「別添フロッピー参照」と書いておくこと。
2. 答案の一部のみをフロッピーで提出するときは、答案用紙上に「以下別添フロッピー参照」の語句と参照番号（A1、B2 など）を書き、フロッピー内文書の該当答案部分の冒頭に答案用紙に書いたものと同一の参照番号を書き込むこと。つまり、フロッピー内容のどの部分が答案用紙上のどの部分に対応するかを明らかにしておくこと。同対応が不明の場合、未採点に終ることがあるので注意すること。
3. フロッピー内の答案（の一部）は、すべて１個のファイルにまとめて書きこむこと。２個以上のファイルに分けて書いた場合は、一部が未採点に終ることがあるので注意すること。またフロッピー内には、答案（の一部）以外のファイルを残しておかないこと（つまりフロッピー内には答案用ファイル１個のみを入れておくこと）。
4. フロッピー形式による答案（引用を含む）の長さの合計は、最大限 10,000 字（A4 用紙で 40 字×25 行×10 枚）程度までとすること。
5. フロッピー規格は、IBM 型 PC(DOS/V 形式)の Windows 用 3.5 インチ 1.4MB のもの（通常最も多く使われている規格、本学内のコンピュータでもこの規格を使用している）に限る。また、フロッピー内のファイル形式は、テキスト（メモ帳など、txt ）、MS ワード（ doc ）、一太郎（ jtd ）、アドビ・リーダー（ pdf ）のいづれかに限る。
6. フロッピーにはラベルを貼り、これに「情報経済論 I／情報経済論答案」に加え、学籍番号と氏名を記入し、答案とは別に監督者に提出すること。

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

大阪学院大学経済学部・企業情報学部(平成１７年度後期)

情報経済論Ⅰ・情報経済論期末テスト問題

2006年2月1日
鬼木　甫

下記（A）－（D）の４個の設問から**２問**（各５０点計１００点満点）あるいは**１問**（８５点満点）を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ（次ページ以下の「注意」Ⅲ.を参照)。選んだ設問について、設問中の単語をすべて含む「記述」（前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ形式の答案）を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を ◯ でかこむこと（ただし ◯ をつけるのは、「記述」中で各単語につき１カ所だけでよい)。

（A）遺伝情報、情報メディア、未開社会、本能、生物と無生物

（B）集権と分権、市場、価格情報、労働意欲、アダム・スミス

（C）株式市場、情報の価値、不確実性、リスク・プレミアム

（D）終身雇用、Ａ型（音声型）手段、組織の柔軟性（多様な事態への対応能力)、客観的・論理的情報

加点票について：

これまで受け取った加点票（出席票各１%を含む）は、テスト答案の空白に添付すること。その際、添付には持参の「のり」あるいは「セロテープ」を使い、かつ加点パーセントの合計を「答案第１ページの左下部」に ◯ で囲んで書いておくこと（故意・過失による計算誤りは、マイナス加点とするので充分注意されたい）。また上記に反する添付は、受け取らないことがあるので注意されたい。

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

Hajime Oniki
06/14/06

大阪学院大学経済学部・企業情報学部(平成１７年度後期)

情報経済論Ⅰ・情報経済論追試・再試問題

鬼木　甫

下記（Ａ）－（Ｄ）の４個の設問から**２問**（各５０点計１００点満点）あるいは**１問**（８５点満点）を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ（次ページ以下の「注意」のⅢ.を参照）。選んだ設問について、設問中の単語をすべて含む「記述」（前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ形式の答案）を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を ◯ でかこむこと（ただし ◯ をつけるのは、答案中で各単語につき１カ所だけでよい）。

（Ａ）遺伝情報、情報メディア、未開社会、本能、生物と無生物

（Ｂ）集権と分権、市場、価格情報、労働意欲、アダム・スミス

（Ｃ）株式市場、情報の価値、不確実性、リスク・プレミアム

（Ｄ）終身雇用、Ａ型（音声型）手段、組織の柔軟性（多様な事態への対応能力）、客観的・論理的情報

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/